

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部 長	南谷 かおり
医長兼総合内科・感染症内科医長	名倉 功二
外来副看護師長	新垣 智子
看護師	呉 小双
保健師	岩岡 文夏
国際医療コーディネーター	難波 幸子
国際医療コーディネーター	木村 ガーリー
国際医療コーディネーター	川上 優太
事務員	廣中 司
協力医師 (膠原病内科部長兼リウマチセンター長)	入交 重雄

—概要—

国際診療科は、その前身となる国際外来(2006年4月開設)の機能強化を目的として2012年11月にスタートし、医療通訳サービスの提供、院内資料の翻訳、受診に関する問い合わせ対応など、外国人が安心して医療を受けられるよう様々な支援業務を行っている。

医療通訳サービスは、当院を受診する外国人患者に対し英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語の4言語で受付から検査、診察、会計まで付き添い通訳を行うもので、患者は無料で利用できる(人間ドックの通訳は有料)。診療の必要な場面で医療通訳が介入し外国人患者と医療者のコミュニケーションの橋渡しをすることで、言葉が通じないことによるトラブルを未然に防ぐと同時に、満足度の高い医療の提供に繋がっている。最近、ベトナム人患者やその他希少言語の患者が増える傾向にあり。また、全く日本語が話せない在留外国人の家族の受診が目立つようになっている。夜間、週末といった時間外や希少言語の対応については、電話による外部の遠隔通訳サービスが利用できるようになっている。

初診や会話に時間を要する外国人患者の場合は、総合内科医である名倉医師が直接英語で対応するか、通訳者が同席し診療を行っている。

通訳コーディネートを始め、外国人患者が円滑に、安心して受診するために必要な各種調整・サポートは当科の国際医療コーディネーターが中心となって担当している。訪日観光客の場合は日本の医療の仕組みに慣れておらず健康保険にも加入していないため、受診の流れや医療費について事前に説明をして理解していただくなど日本在住者とは異なる対応が求められる。

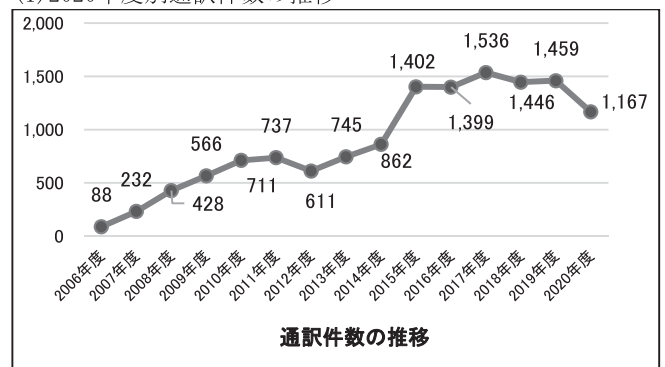
当院は医療通訳者に実地研修の場を提供している全国的にも数少ない医療機関の一つであり、2015年度からは大

阪大学主催の医療通訳養成コースの実習先として協力している。今後ますます需要が高まると思われるこの分野において、当院は「現場に根差した」医療通訳者養成という重要な役割を担っているとと言える。同時に、多言語を話す医療者のバックアップのもと、「常駐型」の医療通訳サービスを提供していることも当院の特色の一つである。

2013年度からは入交医師による米国退役軍人健診を実施しており、2015年からは日本医学英語検定試験会場の一つにもなっている。また、病院スタッフ向けに行っていた医療英会話レッスンは令和2年4月から臨床研修センター主導で行う研修医向けプログラムに組み込まれた。米国で看護師をしていたバイリンガル講師を招き、月1回医療英語のレッスンを行うなど、語学力の向上・啓発にも力を入れている(2021年1月からは新型コロナ感染症対策のため休止)。なお、外国人患者受入れ体制に関する外部評価として、当院は外国人患者受入れ医療機関認証制度「JMIP」の認証を有している他、大阪府外国人受入れ拠点や厚生労働省による「医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業」の拠点病院に7年度連続で選定されている。拠点病院になることで、コーディネーター雇用に関する補助金を申請できるメリットなどがある。

—実績—

(1) 2020年度別通訳件数の推移



(2) 2020年度言語別通訳件数

言語別通訳件数	
中国語	494
英語	199
スペイン語	185
ポルトガル語	112
タガログ語	109
その他	136
合計	1,235

※一人の患者に対していくつかの言語で対応する場合あり。

## (3) 2020年度内容別通訳件数

内容別通訳件数	
診察	698
会計	271
検査	259
説明・相談	203
受付	163
薬処方	158
電話問合せ	93
問診	70
予約	52
処置・手術	36
看護業務	6
その他	108
合計	2,117

## (4) 2020年度診療科別通訳件数

診療科目別通訳件数	
総合内科・感染症内科	123
消化器内科	79
糖尿病・内分泌代謝内科	77
血液内科	41
循環器内科	22
腎臓内科	22
呼吸器内科	21
脳神経内科	2
肺腫瘍内科	0
産婦人科	332
小児科	98
国際診療科	53
泌尿器科	50
整形外科	49
健康管理センター	42
形成外科	41
外科	39
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	36
口腔外科	29
救急科	19
脳神経外科	14
麻酔科	13
放射線科	13
眼科	9
救命診療科	7
心臓血管外科	4
放射線治療科	2
呼吸器外科	1
皮膚科	0
リハビリテーション科	0
その他	9
合計	1,247

※一人の患者が複数診療科受診する場合あり。

## —国際渡航ワクチン外来—

今年度の国際渡航ワクチン外来の受診件数は99件だった。接種ワクチンの内訳を見ると、最も多いのが黄熱で、37名の接種を行った。次いで、B型肝炎、A型肝炎、狂犬病、腸チフス、破傷風の順であった。黄熱ワクチンに関しては、関西国際空港検疫所で行っていた治験が終了し、2019年10月から当院に移行して接種を行っている。

現在当院で用意している輸入ワクチンは、Priorix®(麻疹・風疹・ムンプス三種混合)、Havrix®(A型肝炎)、Verorab®(狂犬病)、Typhim Vi®(腸チフス)である。(新型コロナウイルス肺炎の流行により、受診者数が減少したこともあり、使用頻度の低い一部の輸入ワクチンの取り扱いを中止している。) また、ワクチンの説明、接種のみにとどまらず、安全で快適な海外滞在を支援するために、海外での疾患流行状況や医療機関、防蚊対策、ダニ刺咬対策等幅広い情報提供を行なっている。

内服薬の処方も可能となっており、マラリア流行地域への渡航者にはマラリア予防内服薬(アトバコン/プログアニル合剤、メフロキン)を、高地へ渡航する渡航者には高山病予防薬(アセタゾラミド)を処方している。

新型コロナウイルス感染症の流行により当外来の受診者は減少しており、受診者のほとんどは仕事や帯同家族としての渡航で、特に観光目的での渡航は激減している。

当院は関西国際空港の対岸に位置しており、海外へ渡航する方々の出国から帰郷までを見届けることのできる医療機関であり、当院における本外来の役割は重要である。今後も国境を越える人々の健康保全に努めたい。

## —今年度の成果と反省点—

今年度は、病院資料の翻訳作業を今まで以上に推進し、患者にとっては診療内容を理解しやすく、また医療者にとっては診療がスムーズに行えるようにした。

外国人患者の統計を出しやすくするため、それまで散逸していた外国人患者情報を電子カルテに一元化した。これを実施するために、新たに通訳記録フォームを作成し、電子カルテ内に通訳記録を記載できるようにした。これにより、他の医療スタッフが通訳者の記録を閲覧して情報共有することが可能になり、以前にもまして、医療チームの一員としての通訳者の役割を果たしやすくなった。医療通訳者が電子カルテ上に適切な記録を残すことができるように必要な研修(記録の重要性等、医療安全に関する研修)を行い、また一定期間、医療者が通訳記録を個別チェックして指導した。

## —来年度への抱負—

地域医療機関に、遠隔医療通訳サービスの活用法など外国人診療に必要な情報を提供し、外国人患者のニーズに沿ってアクセスし易い近隣の医療機関を受診できるようにサポートする。